修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8―7（暁ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

日中友好の旅へ出発

中国の招き受けて

全修協　山本理事長を団長に

中華人民共和国は財団法人・全国修学旅行研究協会主催の日本教職員による友好訪華団を認承、全修協に対し正式招へい状を寄せてきた。これを受けた全修協では山本種一理事長を団長とし、各役員、支部長など（四十名）で訪華団を編成、八月十五日午後二時五十五分羽田発の中国民航機で出発、十五日間にわたって中国各地で教育や文化施設、人民公社など、発展をたどる現実の姿に触れ、同二十九日帰国する。

昭和四十七年九月、日中両国の国交正常化が実現、新たな善隣友好の歴史が開かれた。全修協では両国の教育・文化交流のため中国訪問の理念を掲げ、昨年度の第十五回通常総会でも正式に決定、以後、中国当局と接衝を重ねてきた。今回の招へいについては、中国が全修協の日本の教育界に対する強力な影響力を、認めた結果にほかならない。

全修協訪中の目的は、①日本の教職員が、日中国交正常化に関する共同声明の精神を認識し②中国の社会主義革命と、社会主義建設状況の学習③歴史的文化遺産を見学し④両国教職員ならびに中国人民との交流⑤訪中の成果をわが国の青少年の教育に役立てる、ことなどである。

訪中団は七月十五日東京、同十六日大阪でそれぞれ学習会を催し、岩村三千夫氏（日中友好協会＝正統＝中央本部・副理事長）の特別講演も傾聴した。

訪中団は北京、西安、洛陽、上海にそれぞれ二泊、車中二泊の行程で帰国は八月二十九日午後一時三十分羽田着。実施担当は近畿日本ツーリスト。

全修協では今後、訪中国を拡大し、第二、第三次の招へいを要望していく方針である。

B電車は11時12分

関東地区　9時台の集約臨中止で

【関東支局】五十一年度の関東地区中学校・新幹線利用の関西方面修学旅行専用電車の運転について国鉄首都圏本部東京販売センターは、七月二十五日の会議結果を次の通り内定として関修委へ連絡があった。関修委は直ちに全役員に対して報告を行い、九月に開催の運営委員会で協議をかさねることになった。

▼東京発八・二二の「ひかり号」は予定通り運行。ただし五十一年七月一日から八・三六東京発になる予定。

▼東京発九・二二の集約臨「ひかり号」は運転中止し、同一一・一二「ひかり号」に変更。

関東地区中学校修学旅行委員会ではこれに基づいて八月四日、全役員に対して緊急報告をしたが、九月に開かれる運営委員会では国鉄側の出席をもとめてくわしい事情をきくことになった。なお、国鉄では正式決定は十一月になるとしているが、この内定のまま実施の運びになる見込みである。

解説

抜本的対策が必要

五十一年度の新幹線線修学旅行専用電車「ひかり号」は東京発八・二二、九・二二、一一・二二（一〇時台はない）の集約臨のうち九・一二は乗務員確保困難などの理由で運行中止となった。関修委では遠隔地校のため八・二二東京発のほかに九時台の電車が必要であり、九・二二発はそれらの学校のため好都合だと期待がかけられていたが、以上のような理由で中止となったため、やむなく一一・二二東京発を、利用せざるを得なくなった。

八・二二に続く九・二二の東京発は旅行行程の上からみると非常に理想的な時刻だが、遠隔地の中学校をたくさん抱える各県では「つなぎ電車」の問題が大きな負担となっており、さらに国鉄の内部事情が深刻になりつつある現在関修委としても抜本的な対策樹立が焦眉の急となってきたといえる。

つなぎ電車運転要望

関修委運営委ひらく

【関東支局】関東地区公立中学校修学旅行委員会（海保四郎会長）の本年度第二回運営委員会（伊藤守運営委員長）は七月十六日午前十時から東京・新宿の都教育会館で開催。主として五十一年度の新幹線利用について協議を重ねたあと、全員が国鉄首都圏本部東京販売センターを訪れ、東北線関係の上野までのつなぎ列車（臨時）の輸送力増強について要望書を提出、その実現方を強く希望した。

金子善壱事務局長が司会となって開催、海保四郎会長と臼滝全修協事務局長の挨拶があったあと、伊藤守運営委員長が議長となり、協議を行った。金子事務局長から六月二十四、五日、三重県下で行われた関東・東海・近畿二地区修学旅行連絡協議会の経過と次回は十一月下旬、群馬県下で開催を決定したと報告。

また、嶋津運営委事務主幹は六月三十日開催の運営委員会の模様を報告、五十一年度関西方面修学旅行の県別・学校別日割表は作成の段階に入ったと述べた。

新幹線の五―五ダイヤ（一時間にひかり、こだま各五本ずつ）はその後、情勢が変化し五―四ダイヤ（こだま五本、ひかり四本）になる公算が大きくなっているむね報告した。

協議事項では①五十一年度関西方面修学旅行新幹線専用電車割付けについて▽A列車（午前八時十二分東京発）B列車（同九時十二分東京発）を確認▽これにたいする各県の反響のうち、とくにB列車は好評である。②東北線関係のつなぎ列車（臨時）はぜひ運転してもらいたいので国鉄に対して要望する。要望書は原案通り決定した。

風紋

さきごろ、研修旅行団が平泉を訪ねた。新しい視点から新鮮な印象を得たいと思い、事前に若干の文献にふれてみた▼大和朝廷が坂上田村麻呂を派遣して、奥州の攻略を開始したのが、八〇二年で、九世紀が明けた早々のことである。平安遷都がこれに先だつこと八年、天台、真言両宗がそれぞれ八〇五、八〇六年に開かれているから、西方の文化を入れ東方をひらくという歴史的転換期にあったといえよう▼史書には、田村麻呂が蝦夷を征伐したとあるが、征伐とか征討というのは、いわゆる大和朝廷を中心とする思想であって、縄文時代から営々として東北の寒冷に耐え、生活の場を築いてきた原住民から見ると、また迷惑な侵略者の来襲をうけたことになろう▼奈良時代の末頃まで平泉あたり以北は、大和朝廷の支配に入らない土地であり、独自の生活と文化を持った住民の社会があったのである。ある本に「この蝦夷征伐で岩手の歴史はじまる」とかいてあったが、正しくは「中央の政治勢力による住民史の書き換えがはじまった」とすべきだろうと今更ながら考えた▼中尊寺の寺伝によると、嘉祥年間（八四八～八五〇）に天台の高僧慈覚大師が奥州教化のため平泉の地に弘台寿院をひらいたのにはじまったという。田村麻呂による軍事的北方経略に、きびすを接するように、仏教思想が浸透していったことは、東北の歴史を考える上で重要だと思う▼藤原三代の繁栄を背景に、中尊寺毛越寺に仏教文化の華が咲いたのは、これから二百余年の後である。この一世紀にわたる東北史はいまくわしく知るよしもない▼蝦夷とは、中央史書のいうように、未開野蛮の人々であったのではなく、相当高度な文化をもった人々に対するいわれなき蔑（べつ）称であったのではなかろうか▼水光る北上の山野に北の耶馬台国ともいうべき「古代のまほろしの国」を想うこと多い旅であった。

修学旅行と社会科学習

肌で触れた京の歴史

＝中学生のレポートから＝

江川　滉洋

＜1＞

中学生は、修学旅行で、どんな「社会科学習」をしているのであろうか。彼らのレポートの中から二、三拾ってみた。

（A）社会科学習の総まとめ

「将棋で王手をかけるとき、いくつも駒を使うように、ぼくはさまざまな手を使って、〝京都〟を料理した。

一年の〝箱根〟や、二年の〝鎌倉〟とくらべると、こんどの〝京都〟は、ぐんとはりきって原稿用紙に四十枚。写真地図もはさんで、和とじにし、表紙は布張りで仕上げた。

これは、自分の足で訪ね、はだで感じたぼくの〝京都〟。いろんな本を参考にしてけれど、ぼくの目で見て、考えをまとめた中三の記念碑である……」

（B）お寺ってなあに?

「法隆寺ではたっぷり時間があったので、がらん配置も、建築様式も、壁画や彫刻も、なるほどとよくわかった。だが、こんなにぞろぞろと、美術展を見るような見方でいいのだろうか。人の波と排気ガスが飛鳥をほろぼしてしまいそうだ。大仙院の坊さんが、うまい話で皆をドッと笑わせる。石だけのせまい庭を、よくもこんなにおもしろく説明できるものだ。秀吉も利休もながめたというその庭と、静かに話しあう時間がもっとほしかった。

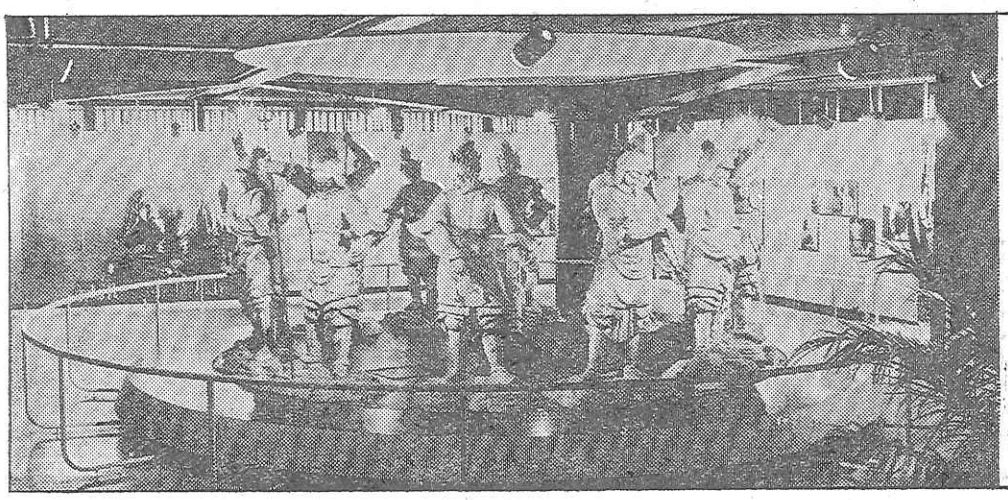
（C）古都の人と語る

「私たちの班は東山区で裏道へ折れた。そこにはあざやかな友禅染が干してあった。思わずシャッターをバチバチと切った。勇気をふるって女の人に話しかけてみた。やわらかい京言葉がかえってきた。京都には、こんなに親切な人が住んでいたのだ。私たちは集合時間の迫っているのも忘れて、話しに聞き入っていた……。」

（D）歴史の重たさを触る

「ひさしの深い京都の旧家。黒ずんだ格子、水を打ってある玄関。私は、何度かためらった末、思い切って格子戸に手をかけた。これだ。千年の歴史の重たさを、私の手が今、感じているのだ。真赤っかの平安神宮よりも、キンキラキンの金閣寺よりも、私はこれを触わりたかったのだ……。」＝つづく＝

【東京都立教育研究所・社会科研究室・指導主事】



奈良大和路のすべてがひと目でわかる展示ホール
奈良歴史教室
（近鉄奈良駅ビル4・5階）

古墳・古建築・仏像などの模型や写真パネル・スライドで、大和路の歴史と観光見どころを楽しく解説。縄文・弥生の昔から今日までの移り変りがひと目でわかる展示ホールです。

入場料…200円　こども100円　団体は割引…25人以上100円　こども50円
営業時間…10時～18時（月曜休館）

お問合せ…近鉄奈良駅ビル内　奈良歴史教室
〒630 奈良市東向中町28　☎（0742）24-3902

近鉄

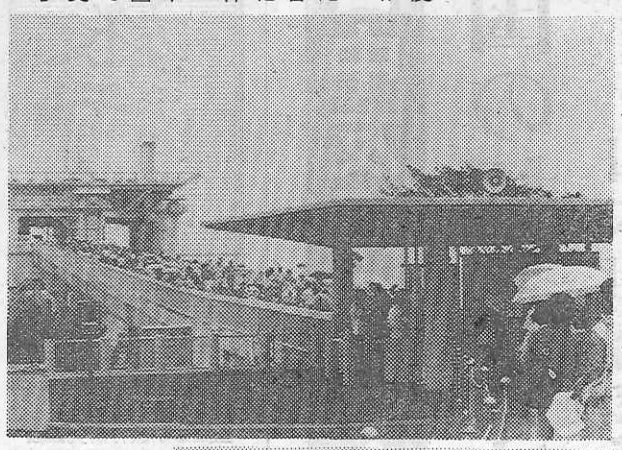
7000名が参加

夏の教職員研修旅行 盛況のうちに終る

財団法人・全修協主催の本年度夏季教職員研修旅行は七月下旬から八月中旬にかけて十九コース、百十団、参加者七千名で行われた。

本年は台風にも見舞われず、各団ともみんな元気で各自の研修にいそしんだ。とくに沖縄国際海洋博が人気をよび、千名をこえた。

日教組と共同企画の海外二コース、東京私学の「日向・阿蘇・国東」修学旅行現地研修会も盛況であった。本年の参加者激増は各支部や協力機関の努力にほかならず本部では感謝している。



▼沖縄国際海洋博コース　アクアポリスへ研修旅行団の行列。海の青さが印象的。（全修協金谷経理部長うつす）

▼利尻・礼文コース　宗谷岬の北端で。もうここでは秋の草花が咲いていた。（全修協嶋津総務部長うつす）

▼山陰一周コース　荻のかま元見学。今も続くのぼりがまの製作過程に目をみはる（全修協早川広報部長うつす）

文化的な匂いも

ネパール紀行

伊藤喜蔵

インド亜大陸の南部、中国・チベットと境を接しているネパール王国で、ことし二月、国王の戴冠式があり、わが国から皇太子ご夫妻がご出席された。

また、五月には日本女子登山隊がエレベスト登頂に成功、登はん隊長田部井淳子さんらがネパール国王から異例の賞賛を受けた。

こうしたニュースが、ネパールという国をますます近くに感じさせられた。というのは私にとってネパールには思い出があり、また気にかかっていることがあるからだ。

○……○

昨年三月末から四月上旬にかけて、インド・ネパールへ旅をする機会に恵まれた。

全国教職員互助団体協議会主催の教職員研修旅行団、しかも団長という重責を、責っての旅であった。

インドは古いものと新しいもの富める者と貧しき者、たくさんの人種、言語など極端と矛盾が複雑に交錯し、混在しているかのように見え、発展途上とはこんな状態をいうのだろうかと思った。

全日程は十日間という短期間だが、うち三泊四日はネパールであった。

地図をみれば国全体が茶褐色に塗られているが、首都のカトマンズには樹木もあり、公園もある。近代都市として設計された新市街は途上国の首都、そしてまた、海抜一四〇〇㍍の高地とは思われないほど文化的な匂いがした。

街を走っている車はほとんど日本製、HONDAやNEC（日本電気）の看板があり、ここでも日本を見た。

ヒマラヤをもう少し近くから見ようということになり、カトマンズから飛行機で西へ三十分、ポカラという町へ飛んだ。

ポカラはヒマラヤ山塊に抱かれているような小都市で、プロペラ機から降り立った空港は、土ぼこりで大変だった。

空港向い側のアンナプルナというホテルに入ったが、ホテルというよりは三階建ての小さな、いわば国民宿舎のような施設である。

支配人以下、従業員数名が入口で歓迎してくれた。一同は腰を低くしてサービスこれにつとめてくれた。ホテルは私たち一行十八名で全館貸切りのようであった。

翌朝、この地にある日本寺を訪ねるためホテルを出発した。

ジープと乗用車に分乗し、土ぼこりのガタガタ道をつっ走り約十五分、大きな湖のほとりに着いた。ここの対岸の山頂にジャパニーズ・テンプルがあると、そこにいた子どもらが指さしをして教えてくれた。この子どもらは、対岸に渡る丸木舟の漕ぎ手なのである。そして大小さまざまなアンモナイトを売っていた。

丸木舟で五、六分。向う岸に着いた一行は、あまり高くはないが山道を登った。緩急つづく細い山道を息をはずませ二十分あまりで山頂到着、レンガ造りの建物が二棟あったけれども、お寺らしきものはなかった。

伊藤喜蔵氏

しかし、まったく素人工事らしい粗末なこの建物の一棟は倉庫であったが、もう一つはまさしくお寺であった。

十坪ばかりの広さ、土間にアンペラを敷き、正面には金色の釈迦像、両側にこれまた金色の蓮華の造花、その前に燭台、香炉を置いた祭壇がしつらえてあり、入口近くの左側の片隅にはキチンとたたんだ蒲団が積まれてあり、修行の場に ふさわしい ふんい気であった。

ここでこの寺の住職森下行哲という方とお会いした。

森下師は日本山妙法寺に所属しカトマンズにある仏教寺院を拠点として布教活動に当っておられ、そのかたわら、この地に仏舎利塔を建立すべく浄財を集め、旦下現地民の協力でその基礎工事に着手したばかりとのことで、日本寺にほど近いその現場を案内してくれた。

三十人ほどの男女が炎天下の下（三月でも）整地作業に懸命であった。

森下師はさらに、そこに居合わせたこの土地の所有者であるというM・S・グルング氏を紹介してくれた。

意外にもこの方は、元のネパール国防相で、熱心な仏教徒であるが、現国王がヒンズー教信者であることもあってか下野し、出身地であるこの地に住んでいるとのことであった。

森下師らの仏舎利塔建立計画にいたく賛同し、自分の所有するこの山を進んで提供し、寺と塔を建てるため物心両面から協力してくれているという。

なるほどグルング氏の堂々たる恰福、その人品骨柄は元大臣にふさわしの風貌の持ち主である。

私どもはこの秋完成するという計画の成功を祈り、グルング氏らと固い握手を交わし、下山しホテルに帰った。

○……○

それから約五カ月、八月十五日の朝日新聞の意外な記事が目にとまった。

それは私どもがその完成を励まし、祈ったネパール・ポカラの仏舎利塔が八月六日、工事なかばで無許可建築物としてネパール政府当局によって取りこわされ、日本人僧侶四人が強制退去を命ぜられたということ、さらに、これに協力したグルング氏は少数部族対策に関連した治安問題で検挙され、日本人僧侶もグルング氏と関係ありとして拘置され、そのうえカトマンズにある仏教寺院も取りこわされ、その際、日本人僧侶の一人が重傷を負ったという内容である。

私にとっては、この日のトップ・ニュースであるはずの韓国朴大統領狙撃事件よりもショッキングな記事であり、出来ごとであった。

ネパールは信教自由の国になっていると聞いていたが、インド亜大陸諸国と同じく、依然宗教的偏見があったのだ。

さっそく東京・九段の日本山妙法寺に電話で問い合わせた。

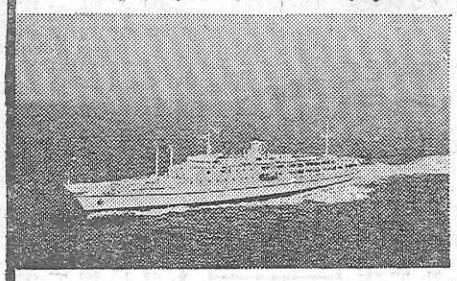
妙法寺はネパール政府に対し、抗議したとのこと。幸い森下師は元気で引続き彼の地で布教に取り組むことになっているということだった。

しかし、グルング氏の安否消息は、いまもって全然わかっていない。

もし刑に服したとしても、戴冠式で大赦があったものと、頼りのないひとりぎめをしている。

（財団法人青森県教育厚生会参与・財団法人全国修学旅行研究協会青森県支部事務局長）

若者・紺青の海・純白の船



貸切専用純客船
ふ　じ　(3,000トン)
にほん丸　(3,000トン)

・スケジュール・コースはご自由に
・旅客定員 1,800名
・サロン・休憩室・医務室完備
・船内でのグループ活動・学習に最適
・全室エアコン完備
・一般客との混乗なし

Ⓐ大島運輸株式会社東京支店　東京都中央区日本橋通1－3－11 浅野ビル9F　TEL 03-273-8911

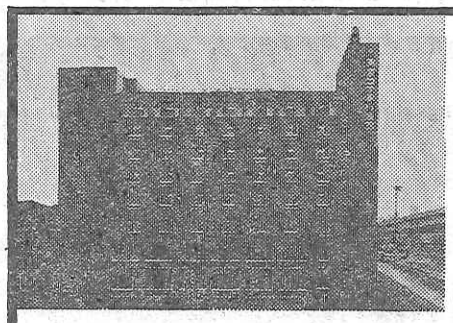
霊峰比叡でお泊りを

■素晴らしい琵琶湖の夜景
■根本中堂で早朝の座禅
■スッキリした気分で次のコースへ
■頭のよくなる精進料理
■夜間は講話や映画上映を無料でご奉仕

〈修学旅行のお宿〉
〈国際観光旅館〉
比叡山 延暦寺会館：別館比叡
TEL 0775－78－0047・0554
TELEX 5464－917

安心して泊れる旅館
東京のお泊りは
文教の地"本郷"で
環境・交通は
修学旅行に最適です
修学旅行のメッカ本郷へ
経験で奉仕する
近畿日本ツーリスト協定旅館連盟
東京支部本郷地区会員

武蔵野館	文京館	平安荘	真成館	朝陽館本家	富士館
本郷館 本館 別館	朝明館	日本学生会館	機山館	旅館かつら	旅館大正園
ふたき旅館	春養館	追分旅館	長栄旅館	（順不同）	



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

東京 コマ旅行会館